

IMA

LIVING WITH PHOTOGRAPHY

2014
Spring

Vol. 7

特別定価 本体 ¥1,905+





11 Mikiko Kikuta

菊田樹子 / インディペンデントキュレーター

『My Favorite 21』尾仲浩二 (Zen Photo Gallery)

そこにいるだけでうれしい

「見ての通りの雑犬である。名前はおそらく、シロカボチ。こういう犬は、ただそこにいてくれるだけでいいのだということを尾仲さんは知っている。『Hysteric 5』で一目惚れしたこの写真に『My Favorite 21』の、しかも1頁目で再会できるなんて!」。愛用していた印刷紙の生産終了にともない、写真家がお気に入りのカットのみをプリントし、まとめた1冊。

Mikiko Kikuta / 展示会の企画や写真集の編集のほかに、「European Eyes on Japan」や塩竈フォトフェスティバルなどの写真イベントも手がける。

12 Yaji Huang

黄 亜紀 / ギャラリスト、ライター



『Flamingo』

Robert Frank

(Hasselblad Center)

写真家の悲しみが
捉えた鳥

ロバート・フランクが1996年にハッセルブラッド賞を受賞した際に発行された写真集。幅広い年代の撮影カットが収録されている。「記憶、イメージ、手書き、タイポグラフィがまとまり、単なる写真集を超えた1冊。突然現れる鳥の写真は、1994年に撮影したもの。過去を振り返るように、この写真集を編集したのではないだろうか。フランクの深い悲しみを表した見開きに思える」。

Yaji Huang / 現代美術や写真の評論などを行い、2012年に出版スタジオaurastudioを設立。今年3月にAura Gallery Taipeiをオープン。



森案内
細川剛

13 Sayaka Takahashi

高橋 朗 / 「フォト・ギャラリー・インターナショナル」ディレクター

『森案内』細川剛 (小学館)

森への慈しみにあふれた1冊

1998年の東川町国際写真フェスティバルで新人賞を受賞した作品。「森に流れる独特の時間の堆積を丁寧に撮った作品で、植物が生まれて呼吸をし、死んでいく……。その姿をつぶさに捉えていく丹念な仕事ぶりに、森に類ずりをするような慈しみや畏敬の念を感じます。写っているのは森そのものなのに、素晴らしいポートレイトのように見えてくる、不思議な写真集です。数カットですが、森に住む動物も写っています」。

Sayaka Takahashi / 川田喜久治や石元泰博などを扱うフォト・ギャラリー・インターナショナル (東京・田町) のディレクターを務める。http://www.pgi.ac

14 Michael Hoppen

マイケル・ホッペン / ギャラリスト



『Wild Window』

Andrea Ferrari

(Tar Magazine)

剥製に閉じ込められた
美しき時間

近年、ヨーロッパの写真賞などでのノミネートも多い、アンドレア・フェラーリによる2013年の1冊。動物の剥製を懐古調に美しく捉えた。「最近うちのギャラリーに所属したのですが、このプロジェクトにとても魅了されました。独自の方法で動物を記録していて、その手法がとても気に入っています」。

Michael Hoppen / ロンドンのMichael Hoppen Galleryのディレクター。19世紀から現代まで、欧州最大級のコレクションを所有する。

